

世界共通の魔法の言語——英語を学び語学力というかけがえのない財産をもって世界に羽ばたく人材になってほしい

1日を英語で過ごす保育を行う『大分インターナショナルプリスクール』。ネイティブな英語にふれて過ごす子どもたちは、抜群の英会話力を身に付ける。加えて奈良代表が大切にすることは、日本の文化を伝えること。日本人としての誇りを持ち、世界共通語により人々と対話できるグローバルな人間を育てると人気の同園を訪れた。

奈良 最初のきっかけは中学2年生の時に母の勧めでロサンゼルスへ赴き、ボランティア活動に参加したことでした。ホームレスの人たちに食事を配るのですが、ろくな英語が話せずに悔しい想いをしたんです。その後帰国し、阪神・淡路大震災の際には、神戸でボランティア活動に参加したのですが、活動には様々な国の方が参加されていて、ここでも英語力の必要性を感じたのです。そういった経験から、英語を学びたいと強く思うようになりました。高校は国際科に進学して必死で勉強し、3年生の時には交換留学生としてカナダのバンクーバーへ行くことができました。期間は1年。私が行った学校には日本人がいなくて、本当に日本語を全く話さない生活だったのですが、あれほど勉強したのに、全然英語が話せない。授業は分かっても、クラスメイトとのコミュニケーションが取れなかつたんです。英語を学ぶことと英会話ができるとの違いを実感しましたね。



奈良 短大に進学して保育士の免許を取得し、大学に編入しました。卒業後はカナダに行つてしばらく働き、帰国してから考えたのが、地元で英会話を学べる保育園をつくることでした。大分には英語にふれながら生活できる保育園がな

●鉄は熱いうちに打て

奈良 子どもというのは聴いた音を発音できるので、幼いころからネイティブの発音を「聴かせる」ことはしませんでした。習わせておけば良かつたと思っています(笑)。

▼奈良代表は、「英語で考える」思考を養った。長じてから学ぶ多くの日本人にとって英語で思考するはとても困難。なぜなら一日脳内で日本語で文章を起こし、それを英語に変換するためだ。英語を聞けば日本語に置き換えて理解するという行程を挟まず、英語で考える英語脳を養うには、幼稚期が適している。また子どもたちは英語脳だけでなく、聴いたまま素直に言葉にできるたままで、発音においても完璧にマスターすることができるのだ。『大分インターナショナルプリスクール』の生徒には、休日でも「change my clothes」と言って大好きな制服に着替え、登園しようとする子もいるとか。英語が生活に染み付いていることと、如何に愛される

園であるかが窺える話である。

加納『大分インターナショナルプリスクール』さんは、子どもたちが1日を英語で過ごす保育を行つておられるとか。奈良代表が英会話に興味を持たれたのは、いつですか。

奈良 最初のきっかけは中学2年生の時に母の勧めでロサンゼルスへ赴き、ボランティア活動に参加したことでした。ホームレスの人たちに食事を配るのですが、ろくな英語が話せずに悔しい想いをしたんです。その後帰国し、阪神・淡路大震災の際には、神戸でボランティア活動に参加したのですが、活動には様々な国の方が参加されていて、ここでも英語力の必要性を感じたのです。そういった経験から、英語を学びたいと強く思うようになりました。高校は国際科に進学して必死で勉強し、3年生の時には交換留学生としてカナダのバンクーバーへ行くことができました。期間は1年。私が行った学校には日本人がいなくて、本当に日本語を全く話さない生活だったのですが、あれほど勉強したのに、全然英語が話せない。授業は分かっても、クラスメイトとのコミュニケーションが取れなかつたんです。英語を学ぶことと英会話ができるとの違いを実感しましたね。



ゲストインタビュー

加納竜
(俳優)

「とかく日本人は欧米人に對して劣等感を抱きやすく、その反動で外国偏重主義になります。しかし奈良代表は、子どもたちが、日本人であることを誇りに思う人間に育つよう。それがとても素晴らしいと感じましたよ」